



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第68号

発行:2011年12月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

認知症の方の生活を支えるリハビリテーション

～生き甲斐のある暮らしを～

横浜ほうゆう病院 作業療法科長 井上 亜希子



最初に横浜ほうゆう病院のリハビリテーションについて簡単にご紹介させていただきます。現在7名の作業療法士が看護部に所属しており、病棟やデイケアに配属されています。それには患者様が生活する環境を評価し、実際の生活の場面で必要な課題に対しリハビリを行うという目的があります。そうすることで患者様の症状に隠れている残存能力を生かし、個人に適した活動を選択することができます。また、さまざまな職種のスタッフと情報を共有しやすくなり、職種の得意分野や専門性を生かしたチーム医療を行うことができます。

横浜ほうゆう病院のリハビリは“生活活動の支援”を目的に行っています。食事、入浴、更衣、移動など基本的な日常生活が困難な場面に対して介入するだけでなく、日中の活動を活発にすることも大きな役割だと考え、さまざまな活動を行っています。その中で今回は“回想療法”をご紹介します。回想療法は昔懐かしい写真や物を使って、これまでの人生の思い出をグループで語り合う認知症のリハビリの1つです。映画をテーマにした時は、当事人気であった銀幕スターの写真を見て、普段言葉を発することが少ない患者様が「友達2人で町まで見に行ったよ。当時は映画しか楽しみがなかったから見に行くのがすごく楽しみで、母の作った服を着て見に行ったのを思い出すわ」と話してくださり、聞いている私達もその方の若かりし日を想像して、自然と笑みがこぼれる和やかな時間となりました。認知症は比較的古い記憶が保たれている方が多いという特徴を生かし、昔を思い出し語ることで、生きてきた道を振り返り人生を認めることができ、認知症で失われてしまうことの多い“現在の自分”を認知することを目的とします。このように様々な活動を多くの職種と協力しながら行っています。

認知症が原因で生活障がい直面している人にとって、どのような環境におかれているかは重要です。環境とは、物理的環境のみならず人的環境や関わり方、介入手段も含まれます。認知症の行動心理症状は必発するものではなく環境によって変化します。例えばトイレの場所が分からず徘徊し続ける患者様が環境を調整、工夫することによって排尿が自立し落ち着き、その患者様にあった場面を設定したら思いがけない作業活動ができることも私たちは臨床でよく経験しています。

認知症は、記憶力の低下、見当識の低下、実行機能の低下を中核症状とし、生活上では時間軸における繋がりがわからなくなったり、順序立てて考え行動することができなくなったりします。しかし、環境を整え最小限の援助で、保たれている機能や能力が発揮できるとしたら、環境を調整することが非常に重要なことだと分かります。生活とは食事、排泄、入浴などの基本的な生活動作の他に、社会や家庭で役割を果たすこと、趣味を楽しんだり、何気ない会話で家族と食事を楽しむことなど、その全てが生活だと考え私たちは支援しています。

人間は基本的な生活動作を基盤にしながら生きていく甲斐がある生活を望んでいます。生きていく甲斐とは、人それぞれではありますが、少なくともその人らしくあることだと考えています。認知症になったからあきらめてしまうのではなく、その方の能力が発揮できる環境を見つけ出し、認知症の方が安心して、安全に、快適に、そして生き甲斐のある暮らしが営めるように努めていきたいと思えます。

医療事故“0”を目指して

横浜ほうゆう病院
安全管理室専従看護師 大竹 啓子

横浜ほうゆう病院は平成22年4月に「安全管理室」を設置し、医療安全に関する業務を担っています。安全管理室は決定機関である医療安全管理委員会の下に位置し、リスクマネジメント委員会、感染対策委員会、ICTとの連絡調整も行っています。

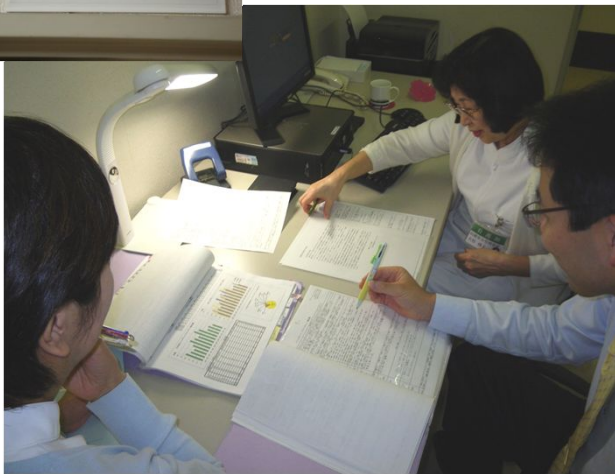
室員として副病院長を室長に、専従看護師、薬局長、事務職の4名で構成され、患者さんが安心して治療や看護が受けられるよう月2回程度のカンファレンスと、リスクマネジメント委員会を中心に院内パトロールを行い、指導・助言を行っています。また、言葉だけでは改善結果として表れにくい場合、デジカメで撮ったものを取り込んで、改善依頼の発行と、改善報告書の提出をしてもらうなどして、医療安全の推進に繋がっています。

専従看護師の活動内容は①インシデント・アクシデント報告書の集計事務に関すること②医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成③事故等に関する診療録及び看護記録への記載の確認と指導④患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認と指導⑤医療安全教育に関する研修の企画及び実施に関すること⑥医療安全に係わる連絡調整⑦医療安全情報の発行等があります。

特に⑦については、当院で起こったインシデント・アクシデント事例や、他院で起きた事故も写真やイラストを入れ掲載し、職員への注意喚起を促しています。当然これに関連して医療安全管理マニュアルの改訂や、新規作成ということに繋がります。今後も各科（課）と連携を図りながら安全管理室の活動に取り組んでいきたいと思っております。



【カンファレンス風景】



ほうゆう祭り ~横浜ほうゆう病院~

ドンドンドンドン…穏やかな秋の午後、独特の音色が病院を包み込みます。

平成23年10月26日（水）に開催したほうゆう祭りで、ボランティアの方々による和太鼓演奏が行われました。そのあまりの迫力に一瞬戸惑いながらも、日本人なら誰しも心躍る和太鼓のリズムに、参加者からは自然と手拍子が！会場が一体となった瞬間でした。

お祭りの最後に参加者から「久しぶりの経験をさせて頂きました」「ありがとうございました」といった感想が聞かれ、楽しく懐かしいひと時を過ごすことができました。



【ボランティア和太鼓“弾”の皆さん】